

腹腔鏡下仙骨脛固定手術の臨床研究について

2024 年 7 月 1 日

高齢化に伴い骨盤臓器脱(Pelvic organ prolapse; POP)の患者は増加傾向にあります。POP の手術療法として従来は膣式子宮全摘術や膣壁形成術などが行われてきましたが、近年、腹腔鏡下仙骨脛固定術(LSC)が広く行われています。

LSC の特徴として、再発例や子宮温存希望例にも適応可能であり、膣の短縮や狭窄が生じないため、術後膣の機能を保つことが可能である点が挙げられます。

今回、当科では「腹腔鏡下仙骨脛固定手術」について振り返り、手術時間、出血量、手術内容を比較し、治療成績の検討を行います。

具体的には、2019 年 7 月から 2023 年 12 月までの 4 年 5 か月間に当科で腹腔鏡下仙骨脛固定手術を行った患者様の手術記録および手術前後にご協力いただきましたアンケート結果の参照を行います。

当研究に関しまして、倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。当研究を実施することによる、皆様への負担は一切なく、また個々のプライバシー保護を最優先とさせていただきます。

なお、本研究への協力をご希望されない方は、その旨を下記に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。ご協力いただけない場合であっても診療において不利になることは一切ございません。

当研究について、ご不明な点、ご質問などございましたら、下記研究責任者までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

研究責任者

所属 行徳総合病院 婦人科

職名 医員

氏名 谷村 史人

連絡先電話番号 047-395-1151(代表)